

被ばく線量の分布等について

1. 被ばく線量

福島第一原子力発電所にて放射線業務に従事した作業者の過去3ヶ月の外部被ばく線量分布（各月別の全入域者数）を表1に示す。

表1

区分(mSv)	H23.11月			H23.12月			H24.1月		
	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計
250超え	0	0	0	0	0	0	0	0	0
200超え～250以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
150超え～200以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100超え～150以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50超え～100以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20超え～50以下	0	3	3	3	1	4	0	0	0
10超え～20以下	10	76	86	13	56	69	12	62	74
10以下	1,144	4,981	6,125	1,154	4,951	6,105	887	4,536	5,423
計	1,154	5,060	6,214	1,170	5,008	6,178	899	4,598	5,497
最大(mSv)	13.40	20.39	20.39	23.20	21.51	23.20	16.17	18.98	18.98
平均(mSv)	1.09	1.41	1.35	1.09	1.31	1.26	1.07	1.28	1.25

これらの数値は入域毎のAPD値の積算値を用いているが、積算型線量計による月間線量値へ置き換えること等により変動することがある。

2. 外部被ばく線量と内部被ばく線量の合算値

福島第一原子力発電所にて放射線業務に従事した作業者の12月末（H23.3.11～H23.12.31）と1月末（H23.3.11～H24.1.31）までの累積線量分布の比較を表2に示す。

表2

区分(mSv)	H23.3～H23.12月			H23.3～H24.1月			増減		
	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計	東電社員	協力企業	計
250超え	6	0	6	6	0	6	0	0	0
200超え～250以下	1	2	3	1	2	3	0	0	0
150超え～200以下	22	2	24	22	2	24	0	0	0
100超え～150以下	117	17	134	117	17	134	0	0	0
50超え～100以下	401	339	740	409	347	756	8	8	16
20超え～50以下	646	1,957	2,603	646	2,078	2,724	0	121	121
10超え～20以下	497	2,578	3,075	494	2,667	3,161	-3	89	86
10以下	1,613	11,330	12,943	1,645	11,662	13,307	32	332	364
計	3,303	16,225	19,528	3,340	16,775	20,115	37	550	587
最大(mSv)	678.80	238.42	678.80	678.80	238.42	678.80	-	-	-
平均(mSv)	24.71	9.29	11.90	24.72	9.35	11.90	-	-	-

外部線量の数値は入域毎のAPD値の積算値を用いているが、積算型線量計による月間線量値へ置き換えること等により変動することがある。

3. 特定高線量作業従事者の外部被ばく線量と内部被ばく線量の合算値

特定高線量作業従事者¹の累積線量分布を表3に示す。

表3

区分(mSv)	H23.12月	H24.1月	H23.3月 ~H24.1月
250超え	0	0	0
200超え~250以下	0	0	0
150超え~200以下	0	0	0
100超え~150以下	0	0	0
50超え~100以下	0	0	205
20超え~50以下	2	0	165
10超え~20以下	6	11	22
10以下	59	441	60
計	67	452	452
最大(mSv)	20.78	16.17	95.39
平均(mSv)	3.97	1.79	45.87

(1月は特定高線量作業従事者の内、57名については入域実績なし)

1 特定高線量作業従事者

電離放射線障害防止規則第7条の緊急被ばく限度(100mSv)が適用されるとされている作業に従事する者。具体的には、発電所に属する原子炉施設並びに蒸気タービン及びその付属設備又はその周辺の区域であって、その線量が1時間につき0.1mSvを超えるおそれのある場所において、原子炉施設若しくは使用済燃料貯蔵槽を冷却する設備の機能を維持するための作業を行うとき又は原子炉施設の故障、破損等により多量の放射性物質の放出のおそれのある場合に、これを抑制若しくは防止するための機能を維持するための作業に従事する者を指す。

1月末時点の特定高線量作業従事者については東電社員のみが対象者である。

4. 経過措置適用者の外部被ばく線量と内部被ばく線量の合算値

特例措置廃止後の経過措置適用者²の累積線量分布を表4に示す。

表4

区分(mSv)	H23.12月	H24.1月	H23.3月 ~H24.1月
250超え	0	0	0
200超え~250以下	0	0	0
150超え~200以下	0	0	8
100超え~150以下	0	0	37
50超え~100以下	0	0	0
20超え~50以下	0	0	0
10超え~20以下	0	0	0
10以下	45	45	0
計	45	45	45
最大(mSv)	1.43	1.73	197.95
平均(mSv)	0.17	0.28	127.56

(1月は経過措置対象者の内、13名については入域実績なし)

2 経過措置適用者

平成23年12月16日の電離放射線障害防止規則の特例に関する省令廃止以後も、平成24年4月30日までの間、同省令に基づく被ばく線量限度250mSvが継続して適用される者。

なお、経過措置適用者については東電社員のみが対象者である。